

2023年度 第1回但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日 時 2023年8月8日（火） 13:45 ～ 14:45
場 所 豊岡市役所3階 庁議室
出席者 10名中6名
事務局 豊岡市（DX推進部長、経営企画課長、経営企画課課長補佐、経営企画課主任）
関係市町 養父市（経営政策・国家戦略特区課）
朝来市（総合政策課）
香美町（企画課）
新温泉町（企画課）
オブザーバー 兵庫県但馬県民局、兵庫県市町振興課

◎報告事項

会長 はじめに、報告事項(1)定住自立圏構想について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 <説明 報告事項(1)定住自立圏構想について>

会長 事務局より説明を受けました。委員の皆さまからご意見・ご質問等ありましたら、ご発言いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

ご意見等ないようでしたら、次の項目に入らせていただきます。

報告事項(2)第3次共生ビジョン達成状況について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 <説明 報告事項(2)第3次共生ビジョン達成状況について>

会長 事務局より説明を受けました。委員の皆さまからご意見・ご質問等ありましたら、ご発言いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

H委員 防災と移住・定住についての意見です。各市町でハザードマップを作成されていると思いますが、安全な場所にも関わらず、危険地域に含まれていることがあったりします。

こうしたことがあると、移住を検討される人からすれば、マイナスイメージになるのではないかと思います。私の周りでもそうした声が聞こえるので、もう少し防災に力を入れても良いのではないかと思います。

事務局 防災面では、ビジョンの20ページに「災害時相互応援体制の強化」を記載しております。これまでから相互応援を目的とした訓練の実施を掲げており、担当部局としても必要性は認識しているものの、実施に至っていないのが実情です。今後も実施に向けて検討を進めてまいりたいと思います。

委員のご発言にもありました移住してこられる方に安心感を持ってもらうことが大切だというのは、そのとおりだと思います。この点をどこまでビジョンに記載できるかは分かりませんが、各分野・各事業の中で意識して取り組んでいく必要があると認識しております。

- F 委員 防災の話で言いますと、公共交通事業者としては災害時の輸送体制の確保が課題となっています。今後、どのように公共交通事業者が連携して計画を進めるのか検討していく必要があると考えています。
- 会長 第3次共生ビジョン達成状況報告の中で、シカの捕獲頭数が基準年よりも減少しているとのことでしたが、何が影響しているのか要因は特定できているのでしょうか。
- 事務局 これまでから継続して捕獲してきたことによる個体数の減少が影響したのではないかと認識しています。
- C 委員 昔に比べるとシカの頭数は減少していると思います。昨年は大雪だったこともあり、山の斜面で足を滑らせたシカが溺死することも多かったように思いますし、最近では交通事故等で死亡するシカも多いと思います。
- 逆に、昨年から林道等でクマに遭遇することが増えており、クマの個体数が増加しているように感じます。また、ハクビシンやイタチも増えており、畑を荒らされることが多くなっているように思います。
- シカの農業被害面積については、農家数の減少も影響しているのかなと感じます。農家の数が減少すれば、農地面積も減少するので、そもそも被害を受ける農地が少なくなります。別のところで、例えば、お供え物等を荒らすというような被害を聞くこともありますので、被害を受ける場所が変わっていることも考えられます。
- また昨今、肥料等が高騰しており、農家によっては作付面積を減らしています。そうしたことが農業被害面積の減少に影響している面があると思います。
- H 委員 そもそもですが、シカ捕獲頭数という基準はいるのでしょうか。農業被害面積が減っているのか、増えているのかという基準だけではダメなんでしょうか。
- 事務局 シカの捕獲頭数を基準としているのは、元々、シカの個体数が増えすぎて、里山と隣接している箇所特に被害が出ているので、まずは個体数を減らしていこうという考え方で設定してきたというところがあります。
- 先ほどもありましたとおり、シカの捕獲頭数はさまざまな要因で減少しています。これまでの捕獲実績により十分に個体数が減少しており、比例して被害面積も減少しているということになるのか、そのあたりの関係性を分析していく必要があると認識しております。
- F 委員 有害鳥獣対策事業の取り組みは、シカだけが対象でしょうか。指標にはシカだけが特筆されていますが。
- 事務局 事業としてはシカだけでなく、イノシシ等も含めて取り組みを進めていますが、指標としてはシカを対象として記載しています。
- A 委員 医師の確保についてです。目標が達成できなかったとなっていますが、但馬の医師数は決して低いわけではないということをご理解いただければと思います。これだけを見て但馬の医師数が少ないと誤解されないようにしていただきたいです。

今後、在宅医療が必要になる方が増え、また開業医の方が高齢化するといった問題があるため、引き続き医師の確保に努めていく必要があると認識していますが、決して少ないわけではありません。

今後も医師を確保していくため、修学資金貸与制度を準備し、豊岡病院組合でも豊岡高校等に医療従事者育成のための講座等を行っています。引き続きご支援・ご協力をいただけたらと思います。

J 委員

専門職大学との連携については、臨地実務実習受入先施設数等を指標として記載いただけていますが、受け入れ先施設数は基準年 77 施設に対し 2022 年が 82 施設となっており、2023 年はおそらく約 90 施設となる見込みです。

本学にあるリサーチアンドイノベーションセンターでは、3市2町の皆さまと連携し、地域課題の解決に向けて取り組みを進めさせていただいております。このような活動が進んでいることを踏まえて、地域との連携が進んでいることを評価いただけたらと思います。

本学の学生は多くが県外からの学生であり、どれだけの学生が但馬で就職するかと言われれば厳しい面もありますが、先ほどのリサーチアンドイノベーションセンターを通じて但馬内の方と関わりを持たせていただいているので、一定数は但馬に残っていただけるのではないかと考えております。

今後、実施しますキャリアサポートセンターの学生向け就職説明会等でもご協力をいただけたらと思います。

会長

ご意見いただき、ありがとうございます。

このあたりで次の項目に入らせていただきます。

協議事項(1)第3次共生ビジョンの変更について事務局から説明をお願いいたします。

◎協議事項

事務局

<説明 協議事項(1)第3次共生ビジョンの変更について>

会長

事務局より説明を受けました。委員の皆さまからご意見・ご質問等ありましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

本共生ビジョンの変更は、懇談会での協議を経ることとなっております。委員の皆さまにおかれましては、さまざまな分野からご選出をいただいておりますので、ご自身の分野でも結構ですし、その他の分野でも結構ですので、将来的に必要な取り組み等につきまして、積極的にご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

特にないようでしたら、最後に、本日オブザーバーとして出席していただいております兵庫県但馬県民局の副局長からコメントをお願いしたいと思います。

県民局

第3次共生ビジョンの達成状況を拝見しますと、初年度から医療の取り組みは順調に進んでいるように見受けられます。

観光面では、観光客が戻りつつあるように聞いていますし、但馬空港の利用については、2022年が46.3%となっていますが、2023年は現時点で約54%の利用率となっており、回復傾向にあるように見受けられます。このまま、コロナ前の状態に戻るのか、さらには、コロナ前の数字より良くなるのかは第3次ビジョンの経過を注視していく必要があると思います。

そうした中、この第3次共生ビジョンの計画期間中に、大阪・関西万博が開催される予定であり、兵庫県としてもフィールドパビリオン等の取り組みを進めています。但馬管内でも17件の事業がフィールドパビリオンの認定を受けています。今後も認定件数は増加する見込みであり、最終的には約25事業になるのではないかと見込んでいます。こうした取り組みは今後、観光に大きな影響を与えるのではないかと思いますので、そうしたこともビジョンの視野に入れられてはどうかと思います。

防災面では、相互応援を目的とした訓練の実施がこれまでから未実施となっています。第3次共生ビジョンの計画期間中には、北但大震災100周年を迎えますので、是非とも取り組んでいただきたいと思います。

まだ第3次共生ビジョンはスタートしたばかりですが、最終的に多くの事業で目標を達成することを願っています。